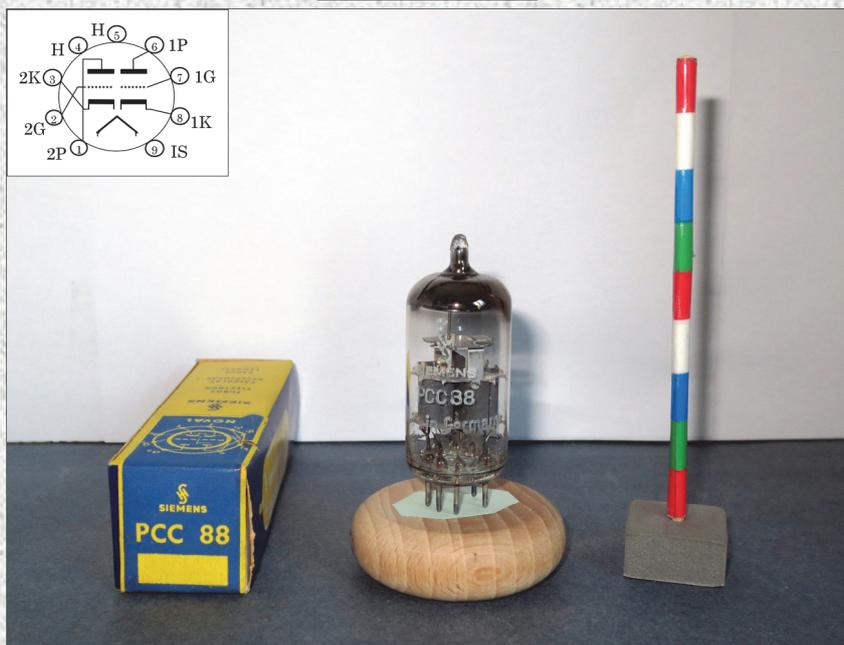


(b) フレームグリッド管

使用時期	型名	Tube -番号
1957(S32)~1964(S39)	7DJ8,PCC88	-125,-124
1958(S33)~1966(S41)	7DJ8	-125
1958(S33)	6DJ8	-128
1958(S33)~1959(S34)	6R-HH1	-126
1960(S35)~1964(S39)	4R-HH8	-127
1961(S36)	6R-HH8	-129
1961(S36)~1963(S38)	4R-HH6,4R-HH2	-130,-122
1961(S36)~1963(S38)	4R-HH6	-130

Tube- 124:

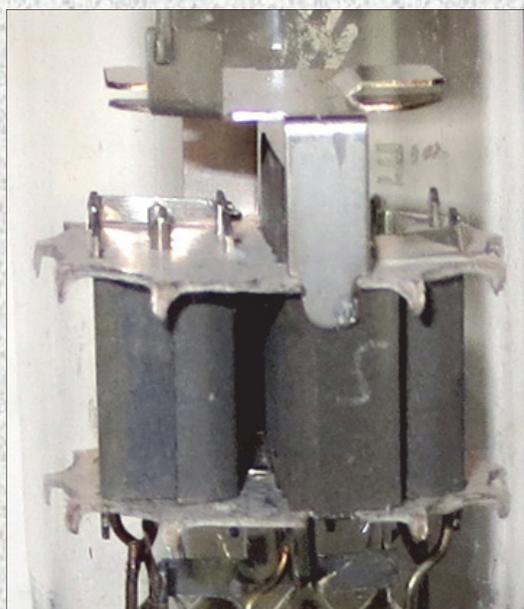
PCC88

サンプル・メーカー	W.Germany (SIEMENS)	外形番号	mT21-2
使用時期	1957(S32)~1964(S39)	初期使用機種	松下電器産業 (S-14L1)
使用回路	MTV:高周波増幅 (カスコード接続)	Ef [V] × If [mA]	7.0×300

特徴：高周波増幅双3極管、フレームグリッド採用、 $C_{gp}=1.4\text{pF}$ (第一・第二ユニット) ,
 $G_m=12,500\ \mu\text{mho}$,等価雑音抵抗 $=300\Omega$

経緯：7DJ8同等、欧州名PCC88、(PHILIPS Electronic Tube HANDBOOK,1957)

7DJ8/PCC88両者併記の真空管が使用されているが入手困難なので、同等のPCC88をサンプルとした。PCC88単独での使用は無い。

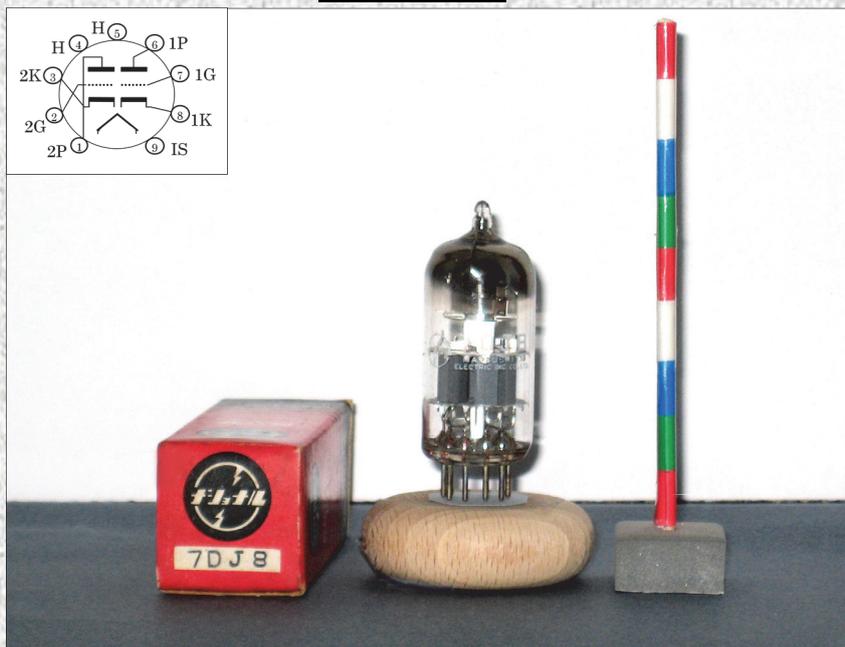


一部拡大



通電状態

Tube- 125:

7DJ8

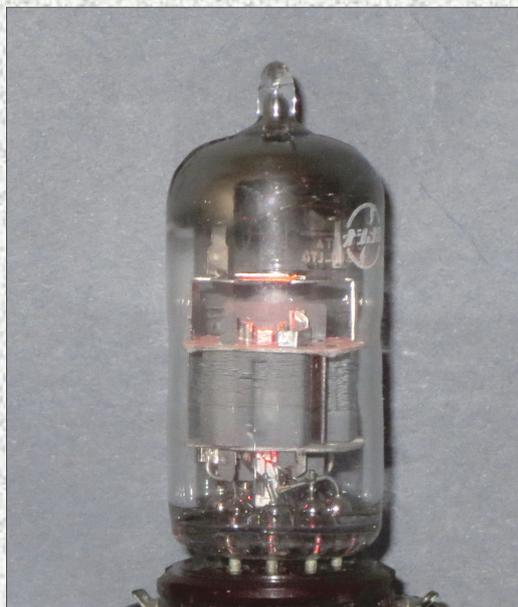
サンプル・メーカー	松下電器産業 (National)	外形番号	mT21-2
使用時期	1958(S33)~1966(S41)	初期使用機種	松下電器産業 (S-14L1)
使用回路	MTV:高周波増幅 (カスコード接続)	Ef [V] × If [mA]	7.0×300

特徴：高周波増幅双3極管、フレームグリッド採用、 $C_{gp}=1.4\text{pF}$ (第一・第二ユニット),
 $G_m=12,500\ \mu\text{mho}$,等価雑音抵抗=300 Ω

経緯：6DJ8同等、欧州名PCC88、(ナショナル真空管ハンドブック,1958)

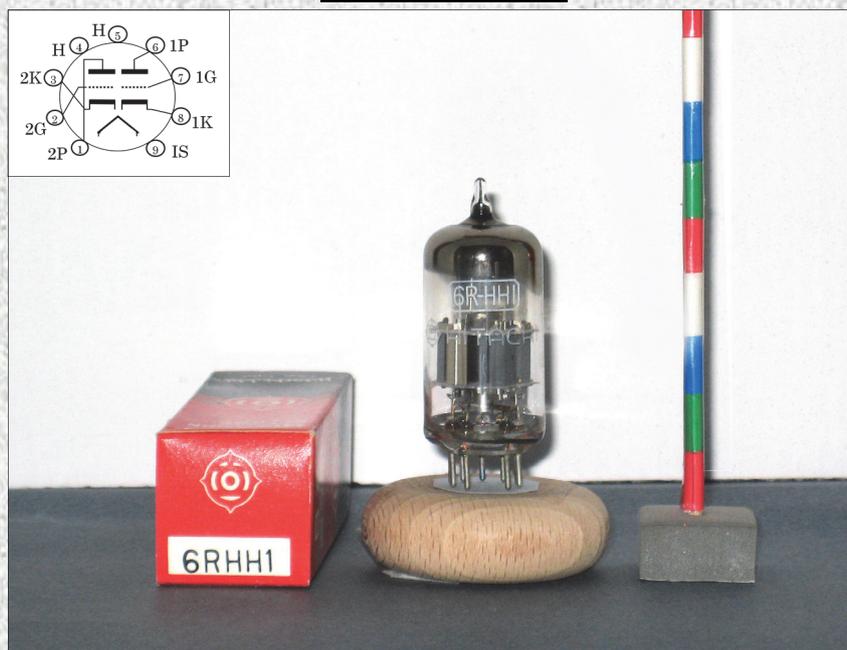


一部拡大



通電状態

Tube- 126:

6R-HH1

サンプル・メーカー	日立製作所 (Hitachi)	外形番号	mT21-2
使用時期	1958(S33)~1959(S34)	初期使用機種	日立製作所 (FY-280)
使用回路	MTV:高周波増幅 (カスコード接続)	Ef [V] × If [mA]	6.3×400

特徴：高周波増幅双3極管、フレームグリッド採用、 $G_m=13.000 \mu \text{ mho}$, $C_{gp}=1.4\text{pF}$ (第一・第二ユニット), $C_{in}=3.6\text{pF}$ (第一ユニット、G接地)

経緯：(Hitachi Electron Tube Hand Book,1963)

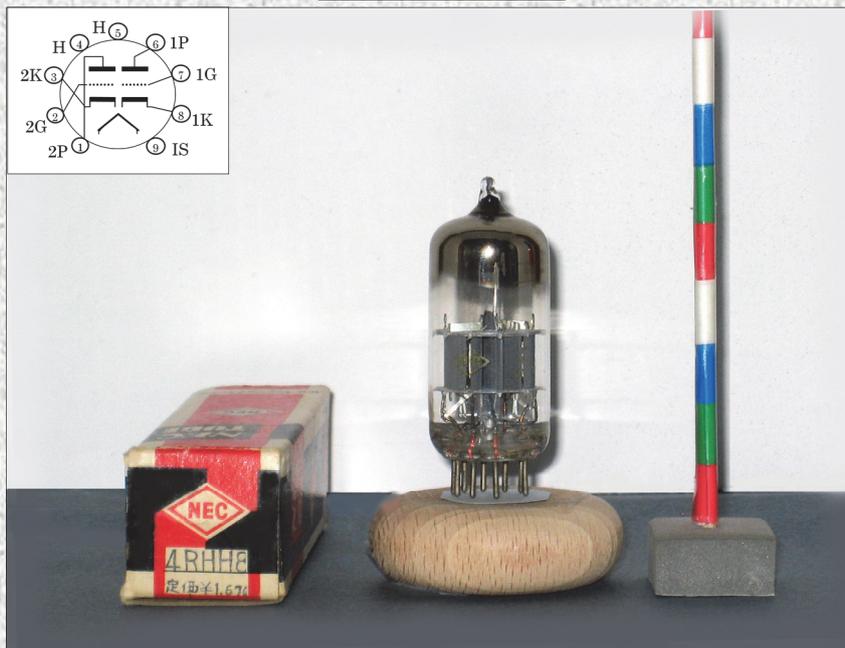


一部拡大



通電状態

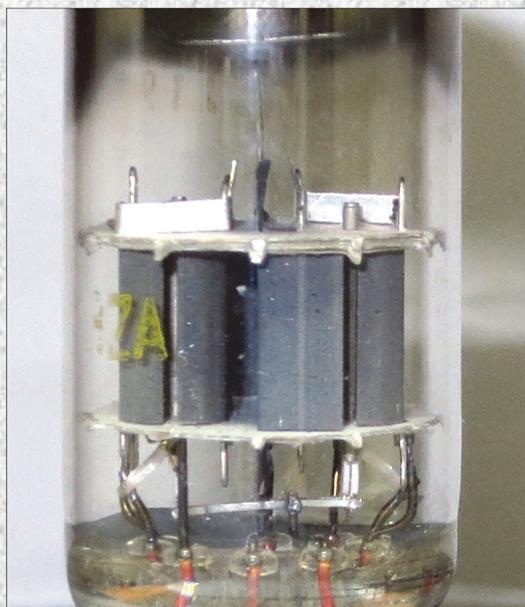
Tube- 127:

4R-HH8

サンプル・メーカー	新日本電気 (NEC)	外形番号	mT21-2
使用時期	1960(S35)~1964(S39)	初期使用機種	早川電機工業 (TD-83)
使用回路	MTV:高周波増幅 (カスコード接続)	Ef [V] × If [mA]	4.2×600

特徴：高周波増幅双3極管、フレームグリッド採用、 $G_m=16.000 \mu \text{ mho}$, $C_{gp}=1.7\text{pF}$ (第一・第二ユニット), $C_{in}=3.6\text{pF}$ (第一ユニット、G接地)、ウォームアップタイム=11秒

経緯：6R-HH8同等、(Hitachi Electron Tube Hand Book,1963)

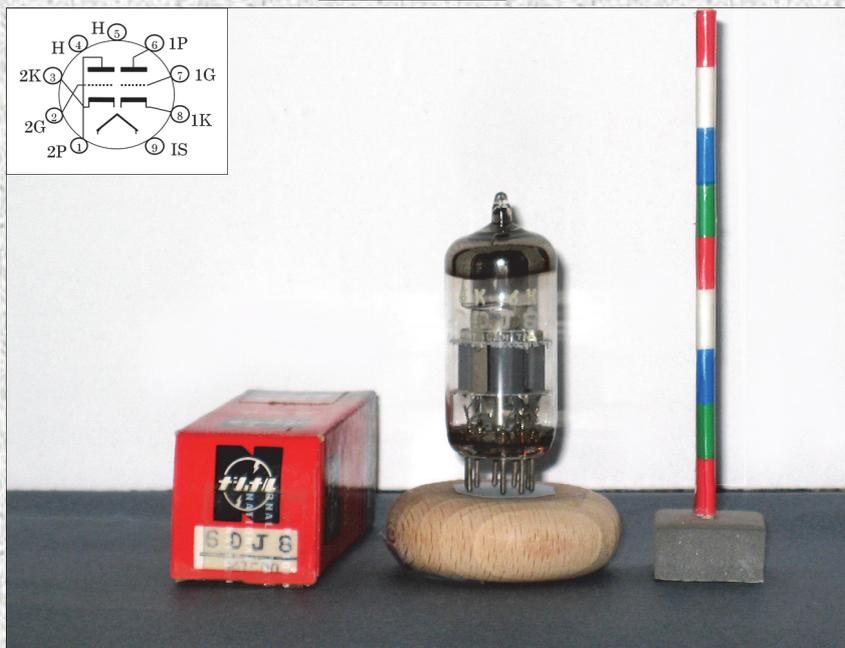


一部拡大



通電状態

Tube- 128:

6DJ8

サンプル・メーカー	松下電器産業 (National)	外形番号	mT21-2
使用時期	1958(S33)	初期使用機種	日本コロムビア (14-T276)
使用回路	MTV:高周波増幅 (カスコード接続)	Ef [V] × If [mA]	6.3×365

特徴：高周波増幅双3極管、フレームグリッド採用、 $C_{gp}=1.4\text{pF}$ (第一・第二ユニット) ,
 $G_m=12,500 \mu\text{mho}$

経緯：7DJ8同等、(ナショナル真空管ハンドブック,1960)

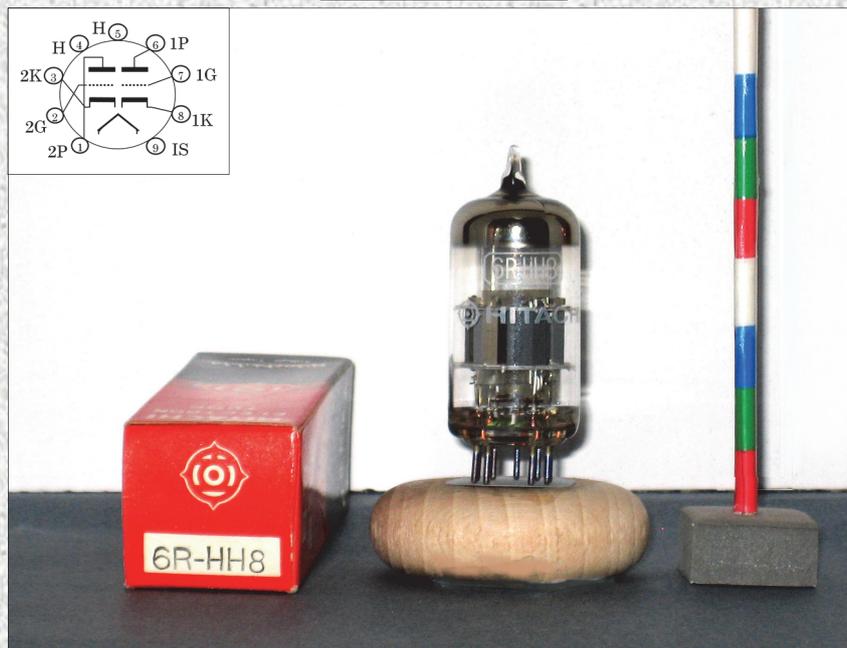


一部拡大



通電状態

Tube- 129:

6R-HH8

サンプル・メーカー	日立製作所 (Hitachi)	外形番号	mT21-2
使用時期	1961(S36)	初期使用機種	日立製作所 (FY-250)
使用回路	MTV:高周波増幅 (カスコード接続)	$E_f [V] \times I_f [mA]$	6.3×400

特徴：高周波増幅双3極管、フレームグリッド採用、ウォームアップタイム規定=無

経緯：4R-HH8同等、 (Hitachi Electron Tube Hand Book,1963)

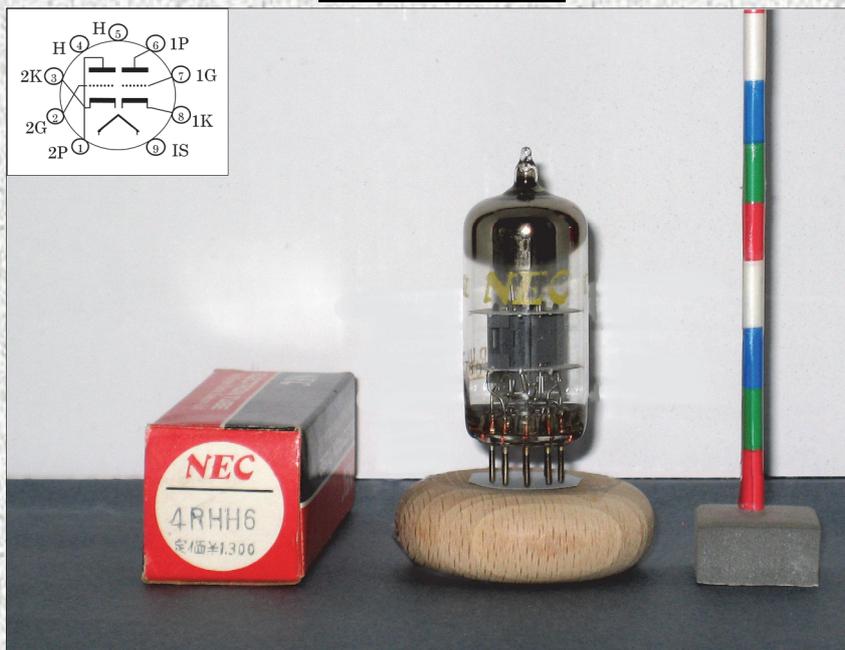


一部拡大



通電状態

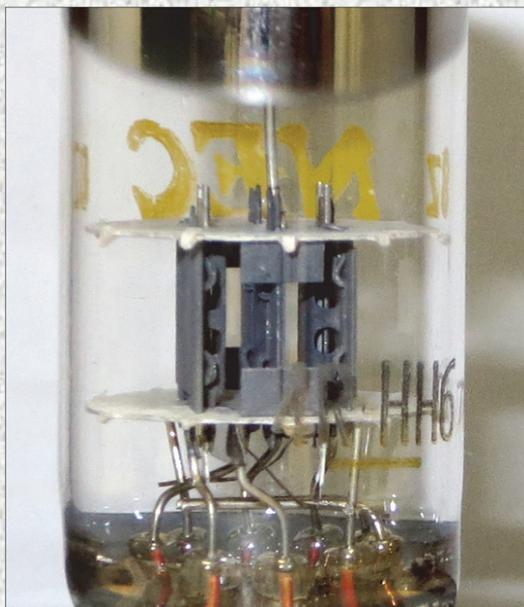
Tube- 130:

4R-HH6

サンプル・メーカー	新日本電気 (NEC)	外形番号	mT21-2
使用時期	1961(S36)~1963(S38)	初期使用機種	三菱電機 (15T-950)
使用回路	MTV:高周波増幅 (カスコード接続)	Ef [V] × If [mA]	6.3×600

特徴：高周波増幅双3極管、フレームグリッド採用、 $G_m=13,000 \mu \text{ mho}$, $C_{gp}=1.4 \text{ pF}$ (第一・第二ユニット), $C_{in}=3.3 \text{ pF}$ (第一ユニット、G接地)、ウォームアップタイム=11秒

経緯：(全日本真空管マニュアル,1964)



一部拡大



通電状態